

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港町塩口24
電話2-9772

今回は各町村の体験活動から、島前地区の特色ある取組を派遣社会教育主事が紹介します。

知夫村 特色ある 宿泊体験活動 が始まる

知夫村では今年度より小中一貫校を開校しました。一貫教育の本格実施に伴い、各委員・関係機関と当村の特色ある取組について検討してきました。

その特徴的な取組が「九年間を通した系統的、発展的な宿泊体験活動」です。

〔下図〕

以前からいくつかの宿泊体験活動を実施していましたが、各活動間の系統性や発展性はなく、それぞれが単発事業として行われてきていました。

「知夫里島学び舎構想」に基づく特色ある宿泊体験活動 (知夫村)

自立・協力・感謝	
中1 5	ふるまい向上合宿(5泊) ね 自立を自覚した生活体験 わ キヤリア教育 ら 協働的な合宿生活
小5 3	島南町で泊まろう(3泊) ね 島外で泊 わ 民泊(恩、感謝、ふれあい) ら 村でできない事前体験
小1 4	初めてのキャンプ(1泊) ね 自宅外で泊 わ スタッフや友達と協力 ら 身近な野外での体験

そこで、発達段階に応じた①小学校校低中学年による野外活動体験、②小学校高学年による島外での民泊交流・体験、③中学生による自立した合宿生活体験という三つのステップに整理することにした。九年間を通して子供たちの「生きる力」と「豊かな心」を育む宿泊体験活動となるよう、泊数や活動内容も徐々にステップアップさせていきます。

当村では、中学校の卒業生の何割かは島外へ進学するケースが見られます。様々な

状況を想定し、中学校卒業時に生徒の自立心を育てておくことは学校・家庭・地域の強い願いでもあります。

今後とも学校教育と社会教育の一層の連携・協働を図り、「自立・協力・感謝」を目指した活動を推進していきたいと考えています。

(横田輝昭)

西ノ島町 キャンプ 西ノ島

西ノ島町では、八月七日より小学四・五年生を対象に、一泊二日の教育キャンプを実施しました。

近年、町内で教育キャンプが実施されず、野外宿泊の経験に乏しい子供たちが、自立心や忍耐力を身につけ、自然に親しむきっかけをつくるために、今回のキャンプが計画されました。(昨年度は台風のため中止)

初日、参加者全員がキャンプ未経験者ということもあり、テント設営を終えただけで、体調不良を訴える子供が

でるなど、不安なスタートとなりました。また、野草のお茶の苦味に顔をしかめたり、薪を使った調理では煙に涙したり、終始、表情が冴えなかつた子供たちでしたが、星空観察での美しい星空によりやがて笑顔が見られるようになりました。

二日目は、自分たちでイカダを組み、全長八〇メートルの航海に挑みました。ふだんカヌーやボートなどに乗り慣れていない子供たちですが、イカダの足もとに見える海面に恐怖心を抱いたり、思うように前に進まないイカダに、悪戦苦闘したりしながらの航海となりました。それでも、お互いに声をかけあい、励ましあいな



がら、二時間かけ無事にゴールにたどり着きました。

閉村式では、参加児童全員が「来年も参加したい。」という感想を述べており、たく

ましく成長したことが伺えました。このキャンプを通じて学んだことを今後の生活に生かしてくれることを期待しています。

(木下 浩秋)

海士町 アドベンチャー キャンプ

海士町の夏といえばアドベンチャーキャンプ、通称アドキャンです。このキャンプは忍耐力とコミュニケーション能力の育成をねらいとして、今年で十九回目の開催となりました。

その歴史を紐解いてみますと、第一回目は無人島松島での十泊十一日からのスタートでした。現在は倉田海岸を中心にして五日六日で実施されていますが、アドキャンのスタイルは変わっても、「海士の子供たちにはこれだけの体験はさせたい」という変わらぬ思いが、しっかりと受け継がれています。

既存のキャンプ場ではないため、参加した子供たちが、

まず驚くのがトイレです。地面に掘られた穴を見て表情が曇ります。このトイレはアドキャン名物の一つで、毎年多くのドラマが生まれます

一方で、子供たちが一番楽しみにしているのが「イカダレース」です。班で試行錯誤して作り上げたイカダをみんな協力して漕いだり、壊れたイカダを修復したりすることを通して、連帯感が高まります。



このように、アドベンチャーキャンプは大自然の中で体験活動を通して子供たちの心身の成長を育む場となっています。

来年は二十回という節目の年となります。今までの伝統やスタッフの思いを大切に、『アドキャン』をより一層魅力的なキャンプにしていきたいと思えます。

(藤野 幹雄)

